

**＜学習前の児童の姿＞**

豆太は弱虫だなあ。夜中に一人じゃしょんべんに行けず、じさまを起こすなんて。

写真、教材、資料等

【黒板に掲示した「モチモチの木」の全文】

**本時の流れ**

１　心に残った人物のことがよく現れている叙述を見付けて線を引く。

２　同じ叙述を選んでいる友達同士で、そこから人物のどんな性格が分かるか交流する。

３　異なる叙述を選んでいる友達と、そこから人物のどんな性格が分かるか交流する。

４　友達との交流を通して、登場人物の性格に対する自分の考えを振り返る。

**本時、こんな力を育てたい**

**物語の一部分だけでなく、複数の叙述を関係付けて登場人物の人物像を捉える力**

**【対話的な学び】小学校第３学年　国語科　単元「心に残る登場人物を紹介しよう」**

**友達と考えを補い合ったり、比べて吟味したりできる交流を授業に位置付ける**

**【授業の概要】**

　物語を読んで、心に残る登場人物を紹介する単元です。

　本時は、教材文「モチモチの木」において、「豆太は弱虫だ」と考える児童の読みを、より多面的なものにするために「対話的な学び」の視点から授業づくりを工夫しました。人物のいろいろな面を見付けることで、より一層その登場人物の魅力が味わえると考えました。

H30 香小中研委託事業 事例様式（案）

**【本時の学習】**

まず、児童は、自分の心に残った豆太が伝わる叙述を選び、黒板の全文掲示に名前磁石を貼りました（下写真）。これにより、友達がいろいろな叙述に目を向けていることに関心をもたせました。

　そこで、「友達がその言葉を選んだ理由を探ろう」というめあてのもと、交流の場を設定しました。

　しかし、交流を通しても、「最初の場面の豆太も、最後の場面の豆太も、やっぱり一人ではしょんべんに行けないんだから、弱虫だ。」と一つの見方にこだわる児童もいました。

そのような児童には、豆太が「５歳」であるという人物設定を確認したり、夜中に一人で、霜が足にかみついて血を流しながらも、泣き泣き走る豆太に着目している友達と意図的に交流させたりしながら、弱いだけでは決してできない行動をとっていることに気付かせるようにしました。

この対話的な学び

を通し、児童たちは、

複数の叙述を関係付

けながら、新しい豆

太像を捉えていきま

した。

**＜学習後の児童の感想＞**

いくつかの言葉をつないだら、新しい豆太の魅力が見えてきました。豆太は弱虫のところもあるけれど、じさまのために医者を呼びに行く勇気や優しさも、もっています。



　文責　○○町立○○小中学校（TEL○○○―○○○―○○○○）　○○　○○